

【目次】

1.アーカイブ No.43

連載「日本労働会館物語」第40回

＜惟一館をデザインしたのは誰かーその 2＞

2. [出張講演]

- ① 07/02(木)～03(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・北陸エリア組合役員
トップセミナー(新潟) 33 名
- ② 07/03(金)～04(土) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・近畿エリア組合役員
トップセミナー(京都) 42 名
- ③ 07/08(水)～10(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・DU 第 3 期「枝垂桜」④
(札幌) 6 名
- ④ 07/22(水)～24(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・第 2 期「正道塾」④
(札幌) 17 名

3. [団体見学]

- ① 07/27(月) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・コープこうべユニオン 11 名

4. 2026 年 友愛会創立を記念する会を 8 月 1 日開催

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.43

連載「日本労働会館物語」第40回 2013.07.11 発行の第 67 号に掲載

＜惟一館をデザインしたのは誰かーその 2＞

明治 20 年、福澤諭吉らの招聘により米国から来日したユニテリアンは、明治 27 (1894) 年にユニテリアン教会・惟一館(後の日本労働会館、現在の友愛会館)を建設し、「至誠・正義・雍穆」を掲げ、ユニテリアン・ミッションを推進します。この「ミッションの仕事」を達成する上で有効な道具」となったのが惟一館です。

ところで惟一館は、前回記述したようにジョサイア・コンドルの作品としては、「和洋折衷のミョーチクリンな建物」(『鹿鳴館の夢―建築家コンドルと絵師暁英』藤森照信著)と酷評されてきました。

この点について新たな問題提起を行ったのが、ユニテリアン研究者として知られる



土屋博政先生(慶応義塾大学名誉教授)です。土屋先生はクレイ・マッコーレイ牧師の手紙(1911 年 10 月 26 日付)を読み解き、そこに「惟一館は私自身の企画とデザイン」との記述を発見しました。以下、当歴史館に寄せられた土屋先生の手紙に記述された、マッコーレイ牧師の英文とその試訳を掲載いたします。

“The Hall is of my own projecting and designing. The architect, when it was building in 1894, complimented me by saying that he had only to make the working plans for my drawings. So, it is the child of my hopes for an efficient instrument with which to do our mission’s work、...”

試訳:「惟一館は私自身の企画とデザインによっています。建築士は、それが 1894 年に建設されていた時、自分はただマッコーレイさんが描かれたデッサンを実行可能な図面にするだけでした、と言って私を褒めて下さいました。ですから惟一館は私たちのミッションの仕事を達成する上で有効な道具になってくれる私の希望の子なのです。」。

この手紙から惟一館をデザインしたのはマッコーレイ牧師であり、コンドルは専門家としてそれを図面に起こしたことになります。マッコーレイの手紙は、藤森照信氏の「和洋折衷のミョーチクリンな建物」、「レベルが低い」とのコンドル批判に、修正を迫るものと言えます。

この点について土屋先生は、「これは藤森氏が和洋折衷を良しとしない審美眼によるものです。もしコンドルが藤森氏と同じように考えていたら、設計を引き受けないか、あるいはマッコーレイに計画案の修正を迫ったと思います。コンドルがそのまま引き受けたということは、彼なりにマッコーレイの考えに賛同し、これを興味深い実験と少なくとも評価をしていたと、私は考えます。」(土屋先生の友愛労働歴史館への手紙)とコメントしています。

また、土屋先生は「もしコンドルが惟一館建築は自分の名声に傷が付くと考えたら、決して引き受けなかったでしょう。マッコーレイはこの惟一館建築の中に東西の宗教文化の融合の理想を込めたのです。この点を積極的に認めるかどうかで、建築物としての惟一館の評価も変わると思います。」(同前)と記しています。さらに土屋先生は「惟一館の和洋折衷の試み」について、藤森照信氏が「唯一館の代表者のアーサー・メイ・ナップ氏が熱烈な和洋折衷主義者だったことが大きい」と推測したことに触れ、「ナップは当時帰国して日本にいませんでしたので、正しくはマッコーレイ」(同前)と指摘しています。

マッコーレイの手紙は、惟一館特異論に一石を投ずるものと言えます。貴重な情報を当歴史館にお寄せいただいた土屋先生に感謝し、来年の「J・コンドル」展の参考にいたします。

2. [出張講演]

① 07/02(木)～03(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・北陸エリア組合役員 トップセミナー(新潟) 33 名

中小の非専従の三役・執行委員などの労働組合の組織はどのような形態をとり、運営されるべきか。組合員と執行部との関係性をどのようにするのか。というテーマを①労働組合の歴史。②労働組合が政治活動・選挙活動をする意義。③次世代を担う役員に求めること。の3点から講演をした。

まず最初に、友愛会創立以来の戦前・戦後の同盟運動、併せて流通労働運動の歴史を講演。続いて労働組合の目的と役割、組織と機能。民主的労働運動の基本(4つの民主主義)、共産主義(左翼)的労働運動の違い、単組の組織のあり方から国際組織との関わりの重要性、役員に求められるものについて講演した。

② 07/03(金)～04(土) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・近畿エリア組合役員 トップセミナー(京都) 42 名

昨今の流通再編を鑑みて、「合理化・再編とあるべき労使関係」について、労働組合としての大テーマである考え方と動き方を講演した。まずは友愛会創立以来の歴史を踏まえ、戦後の労働組合と生産性運動三原則の理解、労使対等を前提とした労使協議制確立への姿勢、労使関係実践の原則、労働組合の活動の原則、労使共通の目標、求められる企業理念=労使共通の理念など労使対等の構築と信頼関係の構築を求める労使関係の考え方。いわゆるコーポレートガバナンスについて講演した。

③ 07/08(水)～10(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン 第3期「枝垂桜」④(札幌) 6 名

「歴史は未来の鏡である」、「過去は変えられないけれど、未来は変える(創る)ことができる」の考え方から、ゼミナール方式で年間を通して塾を実施した。

主な内容は、①日本労働運動の100年余の歴史 ②流通労働運動の歴史 ③民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ④労働組合が政治・選挙に取り組む理由 ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥生産性運動三原則の変遷 ⑦コーポレートガバナンス(企業統治) ⑧あるべき労使関係⑨実践できるリーダーシップ論 ⑩流通産業の動向と労使の政策課題 ⑪民社党の歴史・百折不撓 ⑫次世代を担う流通労働運動のリーダーに期待すること、⑬ダイエーの再編期における労働組合の果たした役割など、全工程18講義、16演習、9視察を実施した最終回。塾生の熱心な勉強する態度に感謝。

④ 07/22(水)～24(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・第2期「正道塾」④
(札幌) 17 名

「歴史は未来の鏡である」、「過去は変えられないけれど、未来は変える(創る)ことができる」の考え方から、ゼミナール方式で年間を通して塾を実施した。主な内容は、①日本労働運動の 100 年余の歴史 ②流通労働運動の歴史 ③民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ④労働組合が政治・選挙に取り組む理由 ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥生産性 運動三原則の変遷 ⑦コーポレートガバナンス ⑧あるべき労使関係⑨実践 できるリーダーシップ論 ⑩流通産業の動向と労使の政策課題 ⑪民社党の歴史・百節不撓 ⑫次世代を担う流通労働運動のリーダーに期待すること等、全工程 13 講義、10 演習、9 視察を実施した最終回。塾生の熱心な勉強する 態度に感謝。

3. [団体見学]

① 07/27(月) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・コープこうべユニオン 11 名

昨年に引き続き UA ゼンセン・流通部門・コープこうべユニオン」のメンバー11 名が見学・受講。「日本労働運動の 100 年余」。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制」・社会主義と自由主義「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。そしてこの歴史が現代の労働組合の基礎になっていることを学んだ。

4. 2026 年 友愛会創立を記念する会を 8 月 1 日開催

「友愛会創立を記念する会」とは、日本労働運動の出発点、そして民主的労働運動の源流ともいえるべき友愛会創立の意義を顕彰し会員相互の親睦と労働運動の発展に資するための活動を行っているのが、本会である。

会は民主的労働運動を推進する各労働組合及び会の趣旨に賛同する多くの労働運動関係者によって1965年に組織され、毎年、友愛会が創立された8月1日に記念行事を行っている。

今年も発祥の地、一般財団法人日本労働会館内において、盛会裏に行われた。今年は、アパートメントハウス青雲荘・友愛病院建設 90 年、また社会民衆党(戦後の日本社会党、民社党)結成 100 周年である。なお、式次第は次の通り。

2026 年 友愛会創立を記念する会 次第

物故者紹介 黙祷

◇主催者代表挨拶	会長	高倉 明
◇来賓祝辞(敬称略)	連合会長	芳野友子
	民社協会代表	川合孝典
	政策研究フォーラム理事長	谷口洋志
◇乾杯	副会長	壬生守也
◇閉会		

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F

TEL03-3453-5386

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----惟一館から132年、友愛から114年-----